

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.160

2015年10月5日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004
神戸市中央区中山手通 4-10-8

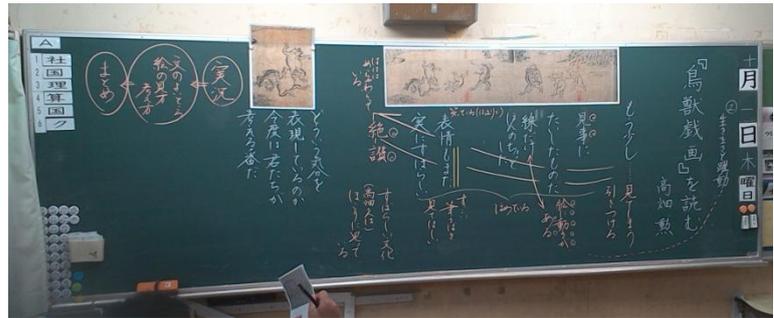
「説明文を読む」ということ

日本語教育部会

授業研究会 開催

研究所日本語教育部会が、豊岡市の小学校において国語の授業研究会をおこないました。

授業は6年生「鳥獣戯画を読む」(光村図書6年)の第4時でした。



冒頭、教材文の前時と本時にあたる部分を音読し、これまでの学びを振り返りました。その後、ひとり調べをもとに交流の時間がとられました。子どもたちは「緊張する」と言いながら意欲的に挙手し、次々意見を発表していました。また、先に発表した内容とつなげて発表したり、「話題が変わりますが・・・」と違う話題に転換したりと、相互に交流しようとする意識の高さを感じました。それから、学んだ表現をいかして、挿絵を解説する文を書く・・・という流れの授業でした。夏の教育課程編成講座でレポートを出し、学んだことをもとにとりくまれた授業だったそうです。



研究協議では、授業者や参観者から、子どもたちが書きにくそうにしていた「挿絵を解説する文を書く」活動についての話題が多く出されました。共通するのは、『挿絵を言葉で表現する』ことはできても、『それがどういう点で良いのか』、また『自分がどう感じるのか』を自分なりに表現することが難しい」ということでした。

共同研究者からは、以下のような助言がありました。

- 自分の表現に生かすためにも、まずは教材文をしっかり読み取ることが必要ではないか。表現するための形式を身につけるために読むのではなく、内容を詳細に読み取る中で形式も身につけると考えては。
- 限られた時間内で詳細な読みを実現するには、教員が言葉にこだわって教材研究し、挿絵と教材文をつなぐ言葉かけなど発問・指示を工夫しながら授業にとりくむ必要がある。

参加者一同が、言葉にこだわって教材研究をすること、それを授業化することの難しさと楽しさを改めて感じた授業研究会となりました。